

花と緑の銀行だより

162号 2007.1



フクジュソウ/中央植物園

目次	・花と緑の提言.....	2	・この人あり.....	5
	・市町村コーナー.....	3	・写真コーナー.....	6
	・緑づくりコーナー.....	4	・情報コーナー.....	7

新年のあいさつ

富山県農林水産部長 寺林 敏



明けましておめでとうございます。

輝かしい平成19年の初春を皆様とともに寿ぎたいと思います。

花と緑の銀行には、置県90周年にあたる昭和48

年の設立以来、花と緑の普及啓発や緑化指導者・緑化グループの育成、花壇づくりの推進など、うるおいと安らぎを感じることでできる花と緑に満ちあふれた地域づくりの推進に多大なご尽力をいただいております。

おかげをもちまして、県民の皆さんによる地域ぐるみの緑花活動が活発に展開され、県内各地の公園、学校、公共施設、道路などが花と緑で美しく飾られ、豊かな県づくりが着実に進んでおります。

これもひとえに、地域の先頭に立って活動いただいている地方銀行頭取やグリーンキーパーの皆様、そして県民の皆様の並々なご支援、ご尽力の賜物であり、心から敬意を表し、感謝申し上げます。

ご承知のとおり、富山県は、三千メートル級の北アルプス立山連峰から神秘の海富山湾まで、変化に富んだ美しい豊かな自然に恵まれていますが、こうした貴重な財産を守り育て、次世代に引き継ぐことは、私たちの重要な責務です。

しかしながら、都市化の進行や、ライフスタイルの変化などを背景に、地球の温暖化、森林破壊と砂漠化の進行など地球規模での環境の変化が懸念されているとともに、私たちの身近な自然が失われつつあります。

一方で、生態系の価値や多様な自然環境の重要性に対する認識が高まるとともに、ガーデニングや花と緑を取り入れた地域づくりに対する関心も高まり、生活にゆとりと潤いを与えてくれる花と緑が果たす役割はますます大きくなっています。

こうしたなか、県では、「富山県花と緑の新世紀プラン」に基づき、花と緑に包まれた良好な環境を守り育て、質を高めていくとともに、地域の特徴を生かした花と緑の創造に積極的に取り組んでいるところであり、地域の緑化活動の輪もますます広がってきているところです。

今後とも、県民のだれもが花と緑に囲まれ、潤いと安らぎに満ちた花と緑の地域づくりに全力を尽くしたいと考えています。そのためにも、花と緑の銀行の活動はもとより、地域における一人ひとりの緑花への積極的な参加と取り組みが不可欠です。皆様方の一層のご支援、ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

おわりに、皆様方の今後ますますのご健康、ご活躍、ご多幸を心からお祈り申し上げまして、新年のあいさつといたします。



第16回全国花のまちづくりコンクール農林水産大臣賞受賞報告

「四季を彩る花とみどりの庭園都市」を目指して

市町村部門 氷見市

氷見市ふるさと整備課主査 大石 泰浩

●市の概要

氷見市(ひみし)は、多くの幸をもたらす「青い海」と「みどり豊かな大地」を有し、海越しに望む立山連峰など、人の心を強く引きつける自然の雄大な景観と、日本海側最大の「布尾山古墳」や万葉の歌人「大伴家持」ゆかりの史跡など、歴史のロマンにも満ち溢れています。

●「四季を彩る花とみどりの庭園都市づくり」事業

市では、昭和48年頃から、日曜園芸講座や花壇コンクール、緑化祭や植樹祭を開催し、市民への花や緑の普及啓発に努めてきました。

平成14年に「四季を彩る花とみどりの庭園都市づくり」をまちづくりの重点施策とし、市民ひとりひとりが花や緑を通して、自然環境、生活環境、まちの景観などに関心をもち、花や緑が溢れ、もてなしの心に満ちた「花と緑のまちづくり」を目指しています。この事業は、①ふるさとの緑を守り人がやすらぐ空間をつくる②心をこめて人を迎えるまちをつくる③豊かな恵みを生む④心の豊かな人をつくる⑤まとまりのある地域をつくるの「5つの基本となる考え」をもとに緑化事業、自然保護事業、環境保全事業、地域づくり事業、人材育成事業を進めています。



市民総出の花壇植え付け作業

なかでも、市民と行政が対等の立場で進めるパートナーシップによる花と緑のまちづくりを基本とすることから、市民緑化活動の中心となる役割を担う人材育成を目指し、ガーデニングの基礎から園芸療法、市民ボランティア、まちづくり等を学ぶ「市民緑化リーダー養成講座」や「市民緑化研究会」を運営してきました。現在、市民緑化リーダーは、コミュニティ花壇の造成や市民緑化シンポジウム等に自ら参画し活躍しています。また、平成17年度から花や緑による地域雇用の創出を目指し、フラワーガイドや園芸技術者の養成講座もスタートしました。

●氷見の自然を取り入れたまちづくり

国指定天然記念物の十二町湯オニバス発生地、上日寺の大イチョウ、イタセンバラをはじめ、南北の植物が混在して自生する蛇が島や65種のトンボが生息する風橋池など、後世に残して行かなければなら

ない貴重な自然環境や希少な動植物が多くあり、地域や学校、ボランティアグループが中心となり、一般市民を巻き込んで、この宝物の保護のための調査、研究や清掃活動、普及啓発を行っています。また、市全域を「田園漁村空間博物館」とし、住民自らが都市との交流を行いながら、地域の自然保護と環境整備活動を行い、ふるさとの原風景を再生・創造する地域づくりや、愛好会や団体による緑花普及、巨樹、名木の保存活動も多く行われています。

●伝統の花づくり

市内の学校や保育園では緑化活動が活発に行なわれ、児童が育てた花鉢の配布や里山づくり、地域住民や保護者との協働による花壇づくりなど、花や緑を通じた地域とのつながりが根付いています。特に花壇づくりには、秀でたものが多くあり、全国レベルでも高い評価を得ており、優秀な花壇活動が行なわれています。花壇づくりは、子供たちの情操教育と地域の人とのつながりの場であり、氷見市の花づくりの原点となっていることから、花壇の改修助成や指導を行い、より愛着を持ってもらうため、レイアウトから造成作業までを、児童や保護者、地域住民に委ねています。



海峰小学校花壇

今回のコンクールでの評価は、緑化活動を行う市民に光があたり、行政が影で支える方法を常に心がけるとともに、氷見市を花やみどりによるネットワークで包み、様々な場面で「花や緑」が活かされ、「花や緑」が実感できるような、まちづくりを市民の皆さんと共に進めて行きたいと思っています。

審査講評

大賞を受賞した氷見市は、約30年前から取り組まれていた花の市民活動を基礎に新たな花のまちづくりの仕組みと仕掛けづくりに成功しています。また地域の自然保護や棚田の保全などに積極的に参加しており、このことは花だけでなく地域の自然や歴史、文化を大切に当コンクールの考え方に合致しています。行政内でも横断的、多面的に花のまちづくりに取り組んでいることが高く評価されます。

審査委員長 比嘉照夫 琉球大学農学部教授

屋敷林におけるスギの健康度の自己診断(2)

富山県林業技術センター 林業試験場

中山間地域資源課長 西村 正史

今回は、屋敷林内の中心的な地位を占めているスギの衰弱の原因が地下部にある場合の診断方法を紹介しました。今回は、気象害による被害の特徴と対策を紹介します。

1. 乾燥害

1-1.被害の特徴

本県では5月や7月から8月にかけて降雨が少なく、乾燥した日が続く場合があります。そのような年には、スギの先端枯れが発生しやすくなります。この時期に極端な乾燥が続くと、枯損するスギが多発するようになります。このような例は1994年にみられました。この年の秋に県内各地の屋敷林やスギ林でスギが枯損するという被害が目立ちました。これは、その年の5月から8月にかけてほとんど雨が降らなかったことによるものでした。

1-2.対策

スギは本来水が停滞しないで流れているような場所でよく育ちますが、水不足になったり、水が停滞したりすると、衰弱します。雨が少なくて乾燥した時には、スギ等に散水を行うようにしてください。屋敷林では強度に枝打ちされたスギをよくみますが、乾燥年と重なると枯損する危険があります。このような年には、強度な枝打ちは控えるようにしてください。

2. 落雷による害

2-1.被害の特徴

落雷の被害を受けると、スギの幹に亀裂が入ったり、黒く焦げたり、幹が裂けて落下したりします。このような場合、葉が急激に鮮やかな赤褐色になって、全体が枯れたり、スギの左右どちらかが枯れたり、あるいは上半分だけが枯れたりします。大径木が被害にかかりやすい傾向にあります。

2-2.対策

避雷針の設置が考えられますが、天然記念物のよ

うなスギは別にして通常のスギでは有効な方法はありません。落雷の被害を受けてスギが衰弱した場合には、被害を受けたスギの樹冠の下で、根元付近を避けた範囲に堆肥等を施して土壌と混和し、樹勢の回復を図ることが大切です。

3. 冠雪害

3-1.被害の特徴

雪国では冬にたくさんの雪が降ります。そのために、雪がスギに積もり、その重みに耐えかねて幹が折れたり、転倒したりする被害が発生します。幹や根が腐朽菌に侵されている場合には、冠雪害の被害を受けやすくなります。

3-2.対策

スギの樹勢を絶えず健全な状態に保つことが大切です。



強度な枝打ちが実施された屋敷林のスギ

ステップアップ研修を受講して

永見支店八代地方銀行

グリーンキーパー 関 重信

25年間、花が咲くのを楽しみに、毎日仲間とともに花壇の世話を続けてきました。しかし、花木の基本的なことについて勉強不足のことが多く、天候や病気等の影響で花を咲かせられなかったことも一度や二度ではありません。今回、研修会に参加してみて、「あっそうか!」と思うことがたびたびありました。花壇の花がしおれてきたので病気ではないかと心配していたところ、先生の助言で見事にきれいな花が咲いたときなどはほっとすると同時に、この研修に参加させていただいたことがとても心強く感じられました。

また、初めて挑戦したブリザードフラワーを持ち帰って家族や友達にうらやましがられ、花づくりの新たな楽しみを見い出せたこと、これまで自己流だったのが初めて正式な雪吊りを教えていただき、冬に向けて自信がついたことなど、個人的にも大変収穫の多い研修でした。

8ヶ月間、研修会に参加して特に楽しかったのは、他の地域の方々といろいろな情報交換ができることです。町内の全部の家庭に花を一鉢ずつ配ったところ、一鉢では寂しいからと各家で増やして楽しんでもらっているという話、花壇にチューリップを植えるのにあまり考えることはない、雪が降る前にばらまくように植えるだけで春には十分きれいな花が咲いてくるという話、珍しい花をもらって花壇に植えれば、決まって「名前は何? 種子をちょうだい」と、うれしい(?) 催促をされるという話など、花と緑を愛する人達ならではの話はいずれも興味深く大変参考になりました。

研修会でのこうした話を地域の仲間たちが待っていて喜んで耳を傾けてくれます。これからも地域の人達との和を大切に、さらなる夢に向かって楽しい個性あふれる花壇づくりに努めていきたい。



射水支店二口地方銀行

頭 取 佐伯日登美

私の受講のきっかけは「園芸セラピー」への関心でした。講師の安藤慶子先生は園芸をとおして心身のリフレッシュによる健康管理を図ることができると話されました。昨年より大門地区の頭取・



グリーンキーパーで特老ホーム「こふし園」の花壇の手入れをしてきました。今年はそれに加えフラワーアレンジメントや寄せ植えにお年寄りの方を誘って集い喜んでいただいたことで園芸療法の大切な部分が見えてきました。

この研修で、6つの班ごとの特設花壇を中央植物園に作ったこともいい思い出です。5月にデザイン、植栽運び、植え込みを終え10月末まで花壇の管理をしてきました。毎月メンバーが集まり雑草取りや刈り込みなどの手入れをしながら観察記録をつくり親睦も図ってきました。お互いの情報交換やそれぞれの花壇見学、花苗の交換など嬉しい交流が今も続いています。

7月下旬の7回目の講座で葉ボタンとパンジーの種まきを学びました。発芽は早かったのですが、真夏の日差しや水やりなど管理は思った以上に大変でした。丹精した苗で作った寄せ植えの鉢は少し我慢気に玄關でお正月を飾ります。

10回に及ぶステップアップ研修は毎回楽しく参加しました。講座の内容は多岐にわたり、丁寧で変化に富み、花づくりの方法に深みを知ることができました。視点を変えて作る花壇、地域に密着した花壇作りを学び、緑化木の植え替えや剪定、雪吊り作業は実習をして技術を習得できました。

参加して得た知識と受講者との交流はとても良かったと思います。これらの体験は今後生かしながら広めていきたいと思っています。最後にいろいろお世話いただきました中央植物園・エレガガーデンの皆様には心から感謝申し上げます。

今年度は、30名の方が4月～11月に花壇の植栽管理、樹木の剪定管理や雪吊り、園芸セラピー、花のまちづくりなど各分野の専門知識に関する講座や実習を中央植物園や花総合センターで年間10回受講していただきました。来年度も実施する予定です。詳細は支店を通じてお知らせします。



寄せ植え実習

平成18年度 花と緑のコンクール コンクール入賞作品 (最優秀賞)



学校花壇の部 (氷見市立海峰小学校)



個人の部 (砺波市 西嶋かな子)



一般花壇の部 (砺波市鷹栖花と緑の推進協議会)



幼稚園・保育所の部 (高岡市成美保育所)



花の道の部 (高岡市成美校下花と緑の推進協議会)

標語の部

すんだ風

花といっしょに

しんこうきゅう

富山市立神保小学校 四年 藤井悠生



ポスター・原画の部

朝日町立さみさと小学校 1年 渡辺とわ

花と緑のニュース

第34回花と緑の大会が開催されました

昨年10月21日（土）富山市婦中町ファボーレホールにおいて第34回花と緑の大会が、石井知事を迎え、県内各地から参集した350名の頭取・グリーンキーパーの見守る中、県環境部門功労者表彰や花と緑の銀行理事長表彰、花と緑のコンクール入賞者の表彰式が盛大に行われました。

表彰式終了後、名古屋芸術大学名誉教授山田卓三先生から「野に遊び、自然にふれ、自然に学ぶ」との演題で講演会が行われました。



表彰式



花壇コンクール作品展をバックに知事と記念撮影

氷見市が農林水産大臣賞を受賞

2006年度全国花のまちづくりコンクール市町村の部に本県から応募していた氷見市が農林水産大臣賞を受賞しました。東京で開催された授賞式には堂故市長が出席されました。（右写真）

前日には優秀事例として氷見市から活動状況（3ページを参照）が発表されました。



お知らせ

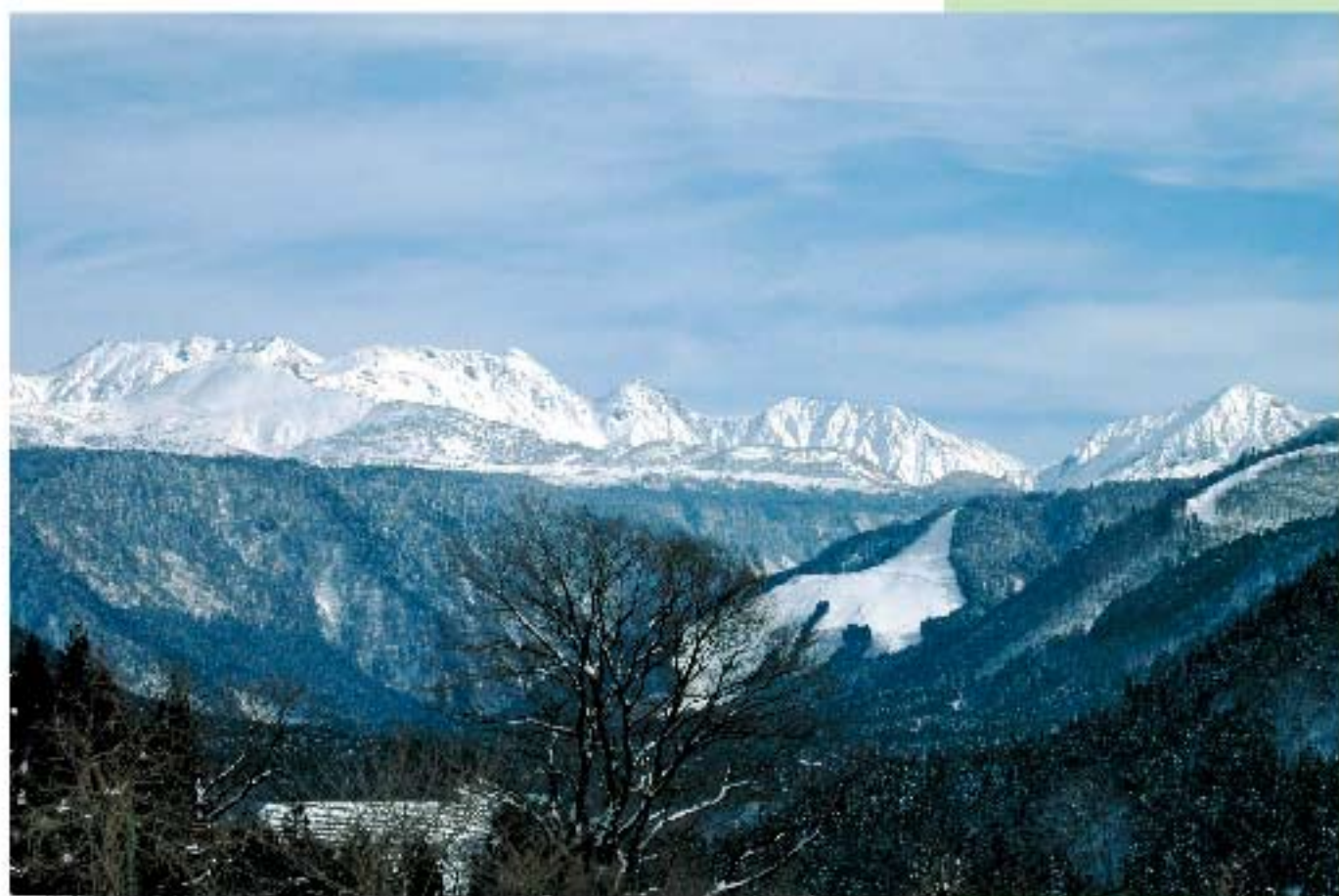
第17回花と緑のフェスティバルの開催について

開催期日 平成19年3月2日（金）～4日（日）

場 所 フューチャーシティ「ファボーレ」富山市婦中町下轡田165-1

キャッチフレーズ「花と緑に親しみ潤いある環境を」

内 容 展示（切り花、鉢花、盆栽、おもた、ドライアートフラワー、押し花、生け花、コンテナガーデン）
教室（ガーデニング教室、フラワーアレンジメント教室、押し花教室、こども木工教室）
物販（草花タネ、球根、切花、鉢花、木工製品（プランター等の即売））



冬の立山



花と緑の銀行だより 162号

発行日 平成19年1月

編集発行 財団法人 花と緑の銀行

〒939-2713 富山県富山市錦中町上巻田42

TEL 076-466-2425

FAX 076-465-5923

ホームページアドレス <http://www.bgtym.org/fgbank/>

富山県中央植物園

〒939-2713 富山県富山市錦中町上巻田42

TEL 076-466-4187

FAX 076-465-5923

ホームページアドレス <http://www.bgtym.org>

富山県花総合センター

〒939-1383 富山県砺波市高道46-3

TEL 0763-32-1187

FAX 0763-32-1219

ホームページアドレス <http://WWW.pref.toyama.jp/branches/1692/1692.htm>

県民公園類成の森

〒939-1431 富山県砺波市類成156

TEL 0763-37-1540

FAX 0763-37-1450

ホームページアドレス <http://www.bgtym.org/ranjyounomori/>